

人間の運命 (1959)

SUDBA CHELOVEK
A MAN'S DESTINY
FATE OF A MAN

メディア 映画
ジャンル ドラマ 戦争
製作国 ソ連
色彩 B&W
時間 100分
初公開日 1960/11/03
公開情報 松竹セレクト
リバイバル 1977/11 [東映洋画]

【キャッチコピー】

生き残った者の慟哭に耳かたむけよ！

【解説】

「戦争と平和」のボンダルチュクの処女作で自ら主演も兼ねた、ショーロホフの短篇小説の映画化。孤独に育ち、貧しい境遇にありながらも、似たような背景を持つ清純な娘イリーナと結ばれ、幸福な家庭を築いているアンドレイは、ドイツ侵攻に、慌ただしく出征。輸送部隊の一員として活躍したが、やがて捕虜となり、各地の収容所を転々とする。重労働やガス室送りで、多くの仲間の命が奪われた。脱走を試みるが果たせず、彼は機会を待つ。そして、敵将校の運転手役となったのを利用し、その車に将校を閉じこめて戦線を突破、自軍に帰還した。一カ月の特別休暇が下り、急ぎ故郷の町に向かうが、アンドレイの見たものは、空襲で一面焼野原となった自宅一帯だった。妻と二人の娘は焼け死んだと聞かされる。砲兵学校を出て第一線の勇士となった長男も、呼び出された司令部に置かれた棺の中、勲章や花に飾られていた。ただ一つの望みも断たれたアンドレイは流浪の長距離トラック運転手になった。ある日、道端に明らかにそれと分かる戦災孤児の幼い少年がいた。思わずその子に“父さんだよ”と声をかけてしまうアンドレイ。途端ににこやかになる坊やの手を引き、彼もまた生きる気概を取り戻すのだった……。戦争の描き方は今観れば公式的すぎてクサ味を感じなくもないが、その映像表現はみずみずしく、“お涙頂戴”のエピローグの演出にも説得力がこもる。

【クレジット】

監督	セルゲイ・ボンダルチュク	Sergei Bondarchuk	
製作	セルゲイ・ボンダルチュク	Sergei Bondarchuk	
原作	ミハイル・ショーロホフ	Mikhail Sholokhov	
脚本	ユーリー・ルキン	Yuri Lukin	
	フョードル・サヤフマゴノフ	Fyodor Shakhmagonov	
撮影	ウラジミール・モナコフ	Vladimir Monakhov	
音楽	ヴェニアミン・バスネル	Veniamin Basner	
出演	セルゲイ・ボンダルチュク	Sergei Bondarchuk	ソコロフ
	ジナイダ・キリエンコ	Zinaida Kirienko	イリーナ
	パヴェル・ボリスキン	Pavel Boriskin	ヴァニューシカ
	パヴェル・ヴォルコフ	Pavel Volkov	イワン
	ユーリー・アヴェーリン	Yuri Averin	ミュラー